



フェリス女学院大学同窓会会報



《聖句》

「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、
冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。」

ヨハネの黙示録三章十五節

2003年2月、緑園キャンパスチャペルに設置された
大村典子氏（1966年 短期大学家政科卒）制作のステン
ドグラス「祈りの道」が、2004年1月ニューヨークに
ある世界最大のガラスミュージアム、コーニング美術
館主催によるNew Glass Review 25に出展されました。

これは44ヶ国から計946人の芸術家及び会社から
2527作品の出展があり、100点のみが厳格に選定され
るもので、この作品がその1点に選ばれ、とても榮誉
ある賞を受賞されました。



New Glass Review 25, New York, NY, USA, January 2004

Coming Museum of Glass
January 9, 2004

Akira Ochiai
8-13 Myamadori, Minami-ku,
Yokohama, Kanagawa-ken 220-0016
Japan

Dear Honored Officials:

Thank you very much for exhibiting our work to New Glass Review 25 - Journey was held
December 12, 2003 at Corning, NY, USA. This year given the theme "Journey", we have invited
Museum of Art and Design, New York, New York; Frans Maas and Joey Kingpinckx, artists; Beatrix
Bosch, architect; and others. We are very happy to be invited to New Glass Review 25. I am a continuing part of the panel
of judges of the New Glass Review 25. I am a continuing part of the panel.

A set of 800 entries and compositions from all countries sent 2,222 pieces of their work for
consideration. From these, 100 pieces were selected to be exhibited in the exhibition. From these, 100 pieces were selected to be exhibited in the exhibition. The selection is very rigorous. I am
very happy to be invited to New Glass Review 25. Congratulations!

Your kind invitation made us feel that you will receive to Japanese in Asia
Glass Review 25. In 2004, the jury will change again, as it does every year. The slides you send
us seem to entirely update our representation in the Museum's public archives contained on the
Bibliography of the exhibition. We are looking forward to your visit to New Glass Review 25.

We hope that you will receive your copy of the Review, which will be sent to you in May directly
from Neues Glas in Germany. If you do not receive your entry form for New Glass Review 25
by May 2004, please contact Tom Ochiai at this Museum.

With best regards,

Tom Ochiai
Tom Ochiai
Curator of Modern Glass

理事長就任ご挨拶

小塩 節 理事長



謹んで皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年三月、ドクター・ストップのため学院長を辞するに当たりましては、「神ともにいまして」の贊美歌をもつてお送り下さいましたが、中島省吾先生がご高齢ゆえに長年の理事長職をお退きになり、この度私が、理事会の選任により理事長の任に当たることになりました。とうてい中島先生のように明晰な会計学の手腕はございませんが、幸いにも岡野昌雄現院長が冷静にして明朗、みごとに学院の統括指導をしておられるので、全学院のうしろでとなり、学校法人の最高決定機関である理事会の長として学院を盛り立ててい

「新たな出会い」

岡野 昌雄 学院長



学長就任のご挨拶

本間 慎 学長



同窓生の皆さんには大変お世話になつております。厚くお礼申し上げます。

二期八年間にわたり学長を務められた佐竹明前学長の任期満了に伴い、図らずも小生がその後の大役を仰せつかることとなり、日々緊張して頑張っています。

さて、大学を取り巻く状況は少子化の進行とともに厳しさを増しています。とくに、女子大の受験生はその半数が対象で、しかも、女子受験生は共学志向や薬学などの理系希望が多い傾向にあると聞いています。したがって、受験生から見て他大学にない魅力ある大学でなければなりません。しかし、本学はご存じのよう学生数約2700名の小規模大学です。私たちはこの小規模大学を逆手にとて大規模大学や共学校ではできない特徴ある教育を目指しています。それを一言でいいまると、一人ひとりの学生を大切にし、学生の隠れた才能を引き出し、発展さ

れることに力を注いでいます。そのため教員が学生一人ひとりと面接し、学習指導を行うアカデミックアドバイザーリー制度を設けています。

本学は、他学部の授業課目も選択できるようになっており、個性的なカリキュラムマニエードで勉学出来ます。たとえば、国際交流学部の学生が音楽学部のピアノのレッスンが取れるなどです。学内での活動は学生の主体性のもとに行われるよう支援しています。また、本学は環境問題にも取り組んでいます。ビオトープ、屋上緑化、雨水をトイレ用水として利用、生ゴミのコンポスト化も行っております。体育館の建設にあたっては風力発電、太陽光発電、屋上ビオトープ、壁面緑化、クールチューブなど省エネを目指しています。21世紀は環境の世纪といわれております。体験を通じた環境教育にも力を注ぎたいと思います。本学の近況報告を兼ねて学長就任の挨拶と致します。

ひとめぐりのフェリスの季節を経験しながら、学院の空気慣れようと思ふ集中した所為でようか、かなり身近に感じるようになりました。これまでずっと大学で仕事をしてきたのですが、大きさに言えば、学校が違うと文化も違うと言えるほどで、この一年は言わば異文化体験の連続でした。大変であると同時に、つねに緊張を感じる心地良さも味わっています。同質の文化や人間関係の中ではとくマンネリ化して失われがちな精神的な刺激がお互いの新しい発見に導いてくれるよう思います。

確かに同質な空間の中ではある種の安らぎを感じてはいますが、しかしどこかに理解しあえる共通の地盤を求めながら、異質なものの同志との出会いの場になることを期待しています。

いのほうが開放された喜びを強く感じることもあるのではないかでしょうか。いつも見慣れた風景が与えてくれる安心感と、のんびりした外国旅行で感じた開放感のような違いと言つたら良いでしょうか。人間関係にも同じようなことが言えるように思います。性格が似ている友達ももちろんいるでしょうが、親友と言える友人はむしろ正反対な性格の人のはうが多いのではないかでしょうか。そのような友人との関係が、自分自身をいつも解放させ、それによって新しい自分を見出せるからでしょう。同窓会がまさにそのような出会いの場になることを期待しています。

きたいと思っております。どうか前任者へと同様のお支えとお励ましを賜りますようにお願いいたします。

当女学院が一八七〇年の創立以来、いまも名門中の名門であることは、改めて言うまでもありません。しかし伝統に安住はできません。しかし伝統を保ち、学問と教養についてたえず自己反省と改革を行い、第三者評価をも受けつつ、困難を極める私学の自立を確保して参ります。

大切なことは、他人の目でなく、神の目のみをおそれて謙虚であり、神と人に愛され愛する、真に深い意味でのキリスト教教育であります。皆様、どうぞよろしく！



短期大学家政科が創った歴史

五十川学科長をしのぶ

中島 省吾 前理事長



今想うこと

佐竹 明 前学長



二期八年間勤めた学長職を辞して一ヶ月経ちました。大学を取り巻く状況が年ごとに厳しくなつて行く八年間でした。この間、何とか勤めあげることが出来たのは、多くの方々のお支えがあったからに他なりません。同窓会の方々には、とくに懸念であった緑園キャンパスの整備のために多大のご支援をいただき、感謝致しております。おかげさまで学生たちに、現在の条件下では最上の学習環境を提供することが出来るようになりました。

厳しい時期でありますでしたが、私個人は学長の仕事を結構楽しみながら勤めさせていただきました。何よりもいい学生たちに恵まれたことが幸いでした。いわゆる心の病を抱える学生の数が次第に増えていることは痛ましいことでしたが、その学生たちとの接触は、人生にとって何が一番大切なかじっくり考える機縁ともなりました。

五十川周作先生の召天（'04／1／27）は、かなり日数が経つてから知りました。久しくお目にかかる機会のないままのお別れとなってしまった本当に残念です。最近理事長室を整理していく、短大家政科を大学部国際文化学科に発展改組した頃の資料を久しぶりで見ました。そのなかでもとくに、「山手68」の5頁の五十川先生の「歴史を創る者」と題された文章に心を打たれました。これは「りべる」の皆さんとともに文学部国際文化学科や国際交流学科に学ばれた皆さんまた、その関係の教職員に是非繰り返して読んで頂きたいと思います。

先生は「家庭科はその（中略）全てをフェリスの新しい歴史の流れの中に投しましました」と云われます。先生がいかに家政科を愛しそのため心血を注いでこられたかは衆知のことです。そして、その学院内外での評価がとくに

大学にうての環境の厳しさは、これからますます現実味を帯びて来るものと思われます。フェリスのような小さな女子大学の場合は、特色をしっかりと持っていないことは、存続の意味すらも問われるようになるだろうと思います。大学として基本的な事柄をしっかりと押さえてかかることはもちろん重要ですが、ただ他の大学の成功例を追いかけるだけでは、結局は埋没してしまうでしょう。

特色ということになれば「他者のために他者とともに」の教育目標を書いて他にありません。それが大学としては最重要の課題としてどまり続けると思います。これには、卒業生の皆さんができる生きるか、という点も重要な要素として含まれると思います。

同窓会の皆さんのが活躍を祈ると同じに、今後もますます母校のために貢献いただけるようお願い申し上げます。

高くなつた頃に、「いわゆる一般家政」中心のカリキュラムに児童教育、社会経済、情報文化、外國語などの科目を大幅に加え、必修を減らし選択の自由を拡大する方向で新しい時代に即応しようとされました。四年制大学への発展において家政学部でない新しい内容が成形されました。ですが、先生はそれまでの伝統と蓄積された財のすべてを投入して、新しい学科また学部が創り出される道を拓かれました。

「前略」家政科も歴史を創った者の宿命として自らの歴史を閉じなければなりません。しかし母校が無くなつたとは思わないでください。「中略」母校とは、むしろ、遊びであれ勉強であれ、真摯で純粹であった時代の自分自身と、その自分自身を想起してくれる学友たちへの憶いです。「後略」この先生の言葉が「りべる」の基礎であり、力の源であるといえます。

Fグループ・りてら・りべるて 合同総会

2004年4月29日・緑園キャンパスにて



「フェリスはひとつ」この思いから
りてら・Fグループ・りべるては、昨
年から総会と会報を協力して運
営発行してきました。

四月二十九日(木)澄みきった青
空に新緑が美しく映える緑園キヤ
ンパスで、第二回合同総会は開催
されました。

はじめに、各同窓会がそれぞれ
の総会を開き、一同チャペルに集
まり礼拝を奉げました。

次に同窓会を代表し、りべるて
皆澤会長よりご挨拶と、Fグルー
プ大谷新会長、りてら田辺新会長
の紹介がありました。

大学より佐竹学長のご挨拶をい
ただきました。近況として、フェリ
ス生は入学後一生懸命勉強をして
いる。これは、図書館の利用者数が
毎年増加していることからもわか
り、皆充実した学生生活を送って
いるそうです。また、インド・ケラ
ラ州でのワークキャンプの取り組
み、緑園に体育館の建設がはじま
った等お話を下さいました。

続いて、音楽学部新卒業生によ
るピアノ独奏と、ソプラノ独唱を
楽しみました。

その後、出席者全員での記念撮

影、懇親会となりました。

理事長中島先生をはじめ、岡野学院長
にもご出席いただきました。来賓を代表
して、中島先生岡野先生にご挨拶いただ
き、楽しいひと時を過ごしました。

今回は、各同窓会ごとにテーブルを用
意して旧交を暖めました。

また、休日にも拘わらず大学総務課の
皆様に大変お世話になりましたことを、
紙面をお借りしてお礼申し上げます。
来年は四月二十九日(祝金)を予定し
ております。皆様どうぞお誘い合わせて
お出掛けくださいますよう、お待ちして
おります。



新人コンサート



*ピアノ独奏

遠藤 弘子（53回卒）

曲目 S.バーバー作曲

ソナタ変ホ短調作品26より
第2・第4楽章

F.グループ総会は、緑園チャペルにおいて、六名

の先生方と、同窓生67名が集い開催されました。
また、7年間務められた会長が退任される為、總
会の前に交代式が行われました。
会長交代式

・会長改選について

選挙管理委員長

田辺 静子

3月の幹事会において、信任投票で大谷新会長
が選ばれました。

・新会長より会長へ花束贈呈

中田 幸子

みんなのおかげで7年間無事に務められま
した。大きな事として、フェリス女子学院創立二三
〇周年記念事業で、F.グループとして二二〇〇万
円の寄付が出来た事と、大学同窓会がひとつにな
った事、この二つをやり遂げた感があります。

1.挨拶 新会長 大谷 園子
同窓会は、年代を越えた交流と研鑽の場であ
り、母校と卒業生とのパイプ役です。重責ですが、
皆の助力を得て三年間務めていきたいと思いま
す。

2.新役員紹介
「レクイエム」より
「ピエイエズ」

G.フォーレ作曲
F.メンテルスゾーン作曲
「聖パウロ」より
「エルサレムよ」

*ソプラノ独唱
佐々木 孝枝（53回卒）

曲目 F.メンテルスゾーン作曲
「聖パウロ」より
「エルサレムよ」

F.グループ総会

第20回 りてら総会

第15回 りべるて総会

日時 四月二九日、於 グリーンホール

司会 大矢節子（71J）

来賓 國際交流学部長 石島紀之先生

りてら総会では、承認された二〇〇三年

度の事業報告・会計報告・ショップ会計報
告と、カフェテラスりてらの会計報告があ
り、これに関する質問が出来ました。また、

カフェテラスりてらが学校管轄になる旨の

学院文書が、発表されました。しかし限ら
れた時間であつたため臨時の会をもつこと

となりました。

なお、新しい体制での最初の総会であった
為、新役員の紹介がなされ、新会長より前

役員へのお礼を述べ、ご来賓の石島先生よ
り、国際交流学部の近況などをお話をいただ

きました。

最後に合 同総会の協

力体制をさ
らに引き継
いでいくた
め、会員の

皆様のご協
力をお願ひ
していくこ
とで一致
し、合同総

会の行われ
る礼拝堂へ
と移りまし
た。

好天に恵まれた
4月29日（木）、緑
園校舎キダーホー
ルにおきまして、友
井先生ご臨席のも
と、出席・委任状計
1577名の主席
者を得てりべるて
総会が開催されま
した。議事に先立
ち、皆澤会長より
ご挨拶と同窓会の
名称を「りべるて」
に改称し16年目を
迎えその経緯や現
状について、また同
窓生を講師に迎え

毎年開催されております講習会のご案内、バ
ザーへのお誘いと寄贈品のお願いについてのお話

がありました。

続いて、ご来賓の友井先生からは、長年家政
科の為に尽力され、今年天に召されました
五十川先生のお話をして頂きました。

引き続き議事に入り、2003年度活動報
告、決算報告、会計監査報告が承認されま
した。審議に移り、2004年度活動計画案と
予算案が上程され、満場一致で承認されま
した。

本年度も皆様のお力添えにより、恙無い終
了を感謝致しますと共に、来年も多く皆様
のご参加を役員一同心よりお待ち申し上げ
ます。

6.閉会の挨拶

新副会長 森 康子





Fグループだより

新しい形の同窓会会報第2号をおとどけすとともに、初めてのご挨拶を申し上げま



Fグループの皆さんへ

Fグループ会長 大谷 園子

7年間も会長をつとめてくださった中田幸子さんがしりぞかれ、4月の同窓会総会です。

田幸子さんがあながたのFグループ会長をお引き受けすることになりました大谷園子でございます。名会長のあただに、責任の重さを痛感しています。先輩・後輩の皆さま、あたかいいご支援・ご協力をお寄せくださいますよう、心から願つております。

私たちの母校フェリスも、少子化の影響で、Fグループの活動を続けています。独自の伝統を育ててきた音楽学部ではあっても、少

この春たまたま、スイスの二人の音楽家と親しく話をする機会がありました。一人は教会音樂を専門とする指揮者で、現在スイス・ルツェルン国立音楽大学学長のアロイス・コッホ教授。もう一人は世界的

である。コッホ教授は音楽活動の本拠をスイスの宗教音樂の中枢であるルツェルンのイエズイッテン教会に置いているが、イエズイッテン教会は4年前にフェリスの音楽学部の学生たちが演奏旅行で訪れ、コッホ教授の指揮でルツェルン音楽大学の学生たちと一緒にJ.S. Bachのモチット "Jesu meine Freude" を演奏した教会

を訪れるのを聞いて、フェリスでも何か話をしていただけないかとお願いし、「キリスト教オルガン音楽実践」の授業の一部で、スイスのイースターの音楽についての話をしてくれることになった。その話の中で氏は、ヨーロッパの宗教音樂は今日に至るまでキリスト



音楽学部学部長 渡邊 明

なソプラノ歌手のエディット・マティスさんである。

このことは音楽に限らず何事においてもそこで長い伝統があればある程、伝統に寄り掛かるのではなく、伝統を活かすために今と

いうものをしっかりと見つめることができることを物語っている。

この度の音楽学部の改組改革もそんな考え方から出発したものである。伝統の本質とは何か、今、音楽教育に求められているものは何かを真剣に考えた末の、より特化された2学科体制なのである。新しい音楽芸術学科は、その今を正しく見つめた学科である。

エディット・マティスさんもルツェルン生

教の教会暦にそつて形成されており、スイスに限らずヨーロッパ全体における復活祭の音楽的伝統は、それまでの数百年に亘るレパートリーがその主なものではある。だが現在でもベンデレックやベルトに見られるように絶えず新しい宗教音樂の作品が作曲されたりしてお伝えしたいと話された。

このことは音楽に限らず何事においてもそこで長い伝統があればある程、伝統に寄り掛かるのではなく、伝統を活かすために今と

いうものをしっかりと見つめることができることを物語っている。

この度の音楽学部の改組改革もそんな考え方から出発したものである。伝統の本質とは何か、今、音楽教育に求められているものは何かを真剣に考えた末の、より特化された2学科体制なのである。新しい音楽芸術学科は、その今を正しく見つめた学科である。

エディット・マティスさんもルツェルン生

の姿を伝えていないというようなことを話すのを納得して聞いていたが、これもまた「伝統と今」に関わる問題であろう。何十年も世界的な一流の指揮者や演出家とオペラを演じて来たマティスさんであればこそその重みのある言葉である。つまりそこには、伝統を活かすとはどういうことか、伝統を護るにはどうしたらしいかが暗示されている。新しい演奏学科の中心的な課題ではある。

子化の影響をまぬがれるものではなく、渡邊音楽学部長が別稿で触れてくださっているように、学生募集方式の変更（演奏学科・音楽芸術学科の2区分）をはじめ、さまざまな改革が進行しようとしております。

Fグループの活動の主軸は、もちろん、卒業生と母校とのつながりをもつパイプ役をつとめること、会員のための研鑽や発表の機会を提供し、同窓生による音楽活動への後援を行なうことがあります。が、同時に、For Othersの精神を受け継ぐフェリスという大学のよさと音楽学部の存在意義とを、今以上に高め広めていく必要がある——こうした意識

が同窓会活動にも同窓生の皆さまの活動にも反映していくのが望ましいのではないでしょうか。昨年から、りてら・りべるて・Fグループがまとまって大学同窓会を立ち上げ、合同の総会を開催し、同窓会会報をひとつにしました理由もそこにあります。

そして、Fグループ（本部）の役員には、前会長時代からのメンバー多数が残ってくださったほか、昨年の卒業生を含む若い力が大勢参加してくださいました。心強いかぎりです。地方にお住まいの同窓生の皆さま、支部同窓会に属しておいでの方の皆さまも、Fグループへの関心をあらたにしてください。各地での同窓会の活動にご参加・ご協力くださいますよう、頼つてやみません。

2003年

音楽の贈り物

●ジョイントコンサート

03年9月23日(木・祝)
於・フェリスホール



さわやかに晴れわたる
秋空が広がった素晴らしい
お天気に恵まれ、山手
のフェリスホールに於いて、卒業生の方々により
ますジョイントコンサート
が開催されました。

この日の出演者の方々は、若い声楽とピアノのソリスト達の演奏に
加え、更に声楽の河村真理子さん(36回生・47回生)、小濱美穂さん(42回生)、ピアノの笹本有子さん(21回生)、佐々木孝枝さん(53回)、中野真帆子さん(34回生)の独奏という大変素晴らしい音楽が披露されました。

多くの卒業生の活躍ぶりを拝聴する事が出来ますこのジョイントコンサートに、お一人でも多くの卒業生の皆様に、聴きにいらして頂けますことを、心より願っております。

本年度も9月23日(木・祝)にフェリスホールで予定されております。どうぞ皆様、お説い合わせの上、お出掛け下さい。

担当 上月早苗(23回生)
出演者(演奏順・敬称略)

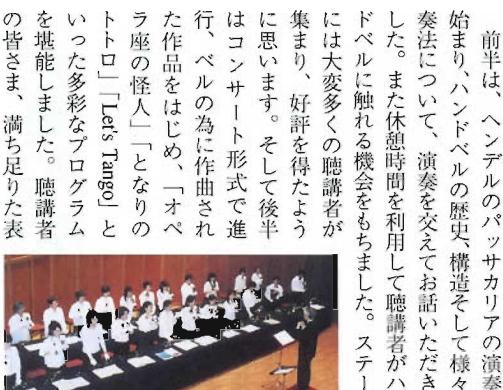
▼小坂朋子(ピアノ独奏・52回生)

▼上田

麻依子(ソプラノ独唱・52回生)・澤田真美(ピアノ伴奏・52回生)▼河村真理子(メゾソプラノ独唱・36、47回生)・長友美夏(ピアノ伴奏・36回生)▼篠本有子(ピアノ独奏・44回生)▼小濱美穂(ソプラノ独唱・42回生)・千葉かほる(ピアノ伴奏)▼中野真帆子(ピアノ独奏・34回生)

●研修会「ハンドベルの魅力」

03年10月13日(月・祝)
於・フェリスホール



暑い位の晴れた秋の午後、太田和男先生と、ハンドベルグループ クレシェンドを招き、研修会を行いました。聴講者は290名、中には小・中・高校生の姿も見られ、盛会となりました。ステージには約120個におよぶハンドベルが並び、開演前から美しい楽器の姿を披露していました。

前半は、ヘンデルのパッサカラの演奏で始まり、ハンドベルの歴史、構造そして様々な奏法について、演奏を交えてお話しただきました。また休憩時間を利用して聴講者がハンドベルに触れる機会をもちました。ステージには大変多くの聴講者が集まり、好評を得たようになります。そして後半はコンサート形式で進行、ベルの為に作曲された作品をはじめ、「オベラ座の怪人」「となりのトトロ」「Les Tangos」といった多彩なプログラムを堪能しました。聴講者の皆さま、満ち足りた表



はじめてのベルに好奇心いっぱい…

担当 比留間和子(16回生)

会場を後にされたように思

います。

喜直先生は社会的にも大変著名であり、演奏会も数多く行われていますが、今回はフェリスというつながりの中で、中田幸子さん、演奏者、聴衆が懐しく特別な時間を共有することができたと思います。

演奏の後は29回卒の高山厚子さん(ウェーブンでピアノを学びながら、お菓子作りを本職とされ、幅広く活躍)のおいしいケーキで語らいのひとときをもちました。

担当 小林周子(29回生)

Fグループ 2004年度 コンサートのご案内

ジョイントコンサート

9月23日(木・祝)PM2:00~4:00 於:フェリスホール
[声楽]小泉寧子(21回)/藤田和恵(34回)/佐々木孝枝(53回)
[ピアノ]岩男潤子(47回)/山本訓仁子(47回)
[弦楽アンサンブル]柴田美和子(21回)他
会費2,000円

研修会

10月11日(月・祝)PM2:00~3:30 於:フェリスホール
~モーツアルトの演奏とお話~
講師:深沢亮子先生
会費1,000円

ティータイム・コンサート

11月4日(木) PM2:00~3:30

於:フェリス女学院大学6号館 632教室
~石川啄木の短歌による歌曲(高田三郎作曲)~
演奏とお話:渡邊明先生
ピアノ伴奏:小林周子(29回)
先着50名 会費1,000円

《お問い合わせ・お申し込み》

ジョイント:上月早苗(23回)

研修会:榎原綠(28回)

ティータイム:清水千晴(52回)

Fグループ事務局(木曜日10時~17時)
T/F 045-681-6740

今年のティータイムコンサートは、りでら食堂のオーベンに伴い、場所を6号館に移して催されました。9回卒の中田幸子さんをお迎えし、「音でつづる中田喜直の生涯」というタイトルでの今回は、60名を超える同窓生が集まり、教室は満員、中田先生ご夫妻の

演奏の後は29回卒の高山厚子さん(ウェーブンでピアノを学びながら、お菓子作りを本職とされ、幅広く活躍)のおいしいケーキで語らいのひとときをもちました。

担当 小林周子(29回生)

お話しの中田前会長(中央)とアンサンブル・フィオレッティ



Fグループ会長選挙報告 大谷園子さん(11回)に決定

去る3月4日(木)にフエリス女学院大学山手6号館632教室に於いて学年幹事会を開催、任期満了に伴う会長選挙を実施いたしました。



新・旧役員

ご出席及び委任状を下さいました学年幹事の皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

管理委員 委員長 田辺靜子(10回)
大島君子(3回) 久保田敬子(13回)
太田和代(25回) 平井桂子(10回)

新役員紹介

副会長	大谷園子（1回）
井上真記子（22回）	・森康子（25回）
常任	小倉一美（30回）・般若澄子（30回）
書記	久保井明子（31回）・奥野ゆりか（40回）
企画	上月早苗（23回）・榎原 緑（28回）
会報	清水千晴（52回）
監査	金子明子（43回）
常任	藏増理恵（47回）
会計	小野和子（19回）
事務局	小林美知（20回）
木村あづさ（43回）	柄之間玲子（46回）
新・旧役員	小泉紀久江（46回）
事務局	熊本美也子（17回）
有坂 緑（40回）	有坂 緑（40回）

いるということで、このコンサートが実現しました。平岩さんと私がフェリス出身ですので、演奏会付き同窓会としよう、となりまして、北支部の皆さんにご連絡したのですが、日いちが悪かったのか、遠すぎたのか、当日は結局4名しか集まりませんでした。

同窓会 자체はちょっと寂しい人数(でも、大きいに盛り上がりました)でしたが、連絡を取り合った際、「都合がつかなら近況を尋ねたり情報を交換したい」ということを会員が望んでいたとわかりました。北支部は、広い地域に会員がちらばつているので、札幌、仙台といつてもなかなか出かけるのが難しい、というのが現状です。そのようなことから、今年の北支部での

先生のシミュレントという予定でしたが、平松先生に出演していただけなくなり、急きょ黒川先生が後半を全部受け持つてくださることになりました。黒川先生のお話を交えた演奏は、なかなか好評で名古屋にもファンが増えたようです。私もその一人です。今年は、前半は卒業生のソロ、デュオ、弦のアンサンブル、後半は平松先生

支部だより

北支部長・工藤 羊子(30回)

中部支部

牛込
まり
(25)
回

昨年の会報には予定として載せて頂きました演奏会＆同窓会が2003年7月

年3回コンサートを開催しています。

同窓会は仙台での開催年ですが、それとは別に会報に準ずるものを検討してみた
いとthoughtっています。

中部支部

年3回コンサートを開催しています。昨年度のふれっしゅ・コンサートは、出演される方も多く華やかでした。年々レベルが上がつていると痛感しますが、もう少し高校までにお世話になつた先生方や、高校生にも来ていただき

て、演奏を聴いていた
だきたいというのが
中部支部の願いです。
そこで今年は、高校

小塙先生に翌日参加していただいた、もうたいないくらい素敵な時間を過ごす事が出来ました。参加した全ての方が小塙先生の大ファンになり、盛り上がりました。このつながりをこれからも大切にしていきたいと思います。今年に入つてからは子供達の合同コンサート。先生方は練習させることに苦労されています。

中部支部の役員は、手弁当で本当に良くやつてくださっています。コンサートの収支を合わせる事が目下の課題です。

関西支部

関西支部長 小川 真紀子（23回）

昨年は11月12日、りてら、りべるて、白菊会、Fグルーピ合同での同窓会を旧藤田男爵邸の敷地七千坪を有する、都会のオアシス、と称されております太閤園にて行いました。

昨年の同窓会のメイン企画は、33回の山名朋子さんにチエンバロの演奏をして頂いたことです。しかし参加者のほとんどが、チエンバロの生演奏ははじめてと言う方が多かつたため、山名さんにはチエンバロのお話や演奏して頂く曲目の解説もお願ひしました。

デュオ、玄のアン

デュオ、弦のアンサンブル、後半は平松先生

いしました

そして山名さん所
有の全長2メートル以上
ある見事な装飾を
施したエンバロに目
を奪われ、山名さんの
素晴らしい演奏に心
を奪われ、まるでバ
ロック時代にタイムス
リップしたようなステ
キな時間が会場全体
を包み、そして感動の
中で演奏が終了しま
した。Fグループの方
は勿論のこと、りてら、りべるて、白菊会の
方々にも大変喜んで頂きました。
しかし、それでも参加者は総勢38名、内
Fグループ13名。今後の課題として、同窓
会の参加者をもっと増やすことだと考
えています。特に若い卒業生の同窓会離
れをどうやれば食い止められるのか、又
同窓会への参加意欲をどうすれば引き出
せるのか……それが私達役員の最大の課
題です。

ただ不運なことに、ご主人様の転勤等
で現在関西支部の役員は、私を含め2名
となってしまいました。今年の11月10日の
同窓会に向けて、かなり早目からの準備
が必要ではないかと考えている所でござい
ます。

九州支部
九州支部長 牛島 悅子（19回）
私の九州支部は、一昨年に支部長及
び役員が交代しまして、現在は5名で協
力しながら運営しております。会員数も
一時ほどではあります。会員数も
ます。

目下、福岡には、フェリスのすべての学部
及び中高の卒業生が所属する西南支部の
同窓会もあり、音楽科の卒業生は、双方に
会費を収めねばなりません。そのよ
うな事情から、本年度からは、本部の方式
にあやかって、総会は一緒に進行するようによ
うに考えていました。

ただし、音楽科の同窓生の相互の親睦や
連絡等は密にして、母校との関連情報等
も今まで通り伝えてゆきたいと思っていま
す。又、独自にいろんなプランも平行して
実施したいと、皆で意見を出し合っていま
す。

昨年度（2003年）の例会は、9月に、

三宅様名先生をお迎えして、久々に50名
近くの方々の出席をもって行なうことが出
来ました。クラシック音楽を取り巻く環
境が、日々変わってゆく比頃、様々な新し
い試み等、先生の演奏も交えて、大変刺激
的なお話しをうかがいました。先生の工
ネルギッシュなご活躍に、「元気」をい
ただき楽しいひとときでした。

又、先月には、地元福岡で、畠田美智代
さん（旧姓 玉井 31回卒）のソプラノリ
サイタルが行われ、盛会でした。久し振り
に（？）正統なドバイリートがメインのプ
ログラムでした。（今は、オペラや軽い曲目
好まれる中で）今後は、若い方々も、もつ
と積極的に活躍して下さることを期待
し、私共も協力して応援してゆきたいと
思っています。



2003年度会計収支報告

<支出の部>

項目	予算額	決算額
(1) 運 費	[1,140,000]	[857,681]
会議費	30,000	22,634
印刷費	60,000	59,508
通信費	10,000	9,760
会員登録料	350,000	350,000
交際費	100,000	37,405
事業費	50,000	39,323
出張費	100,000	0
会員登録料	300,000	282,000
学年幹事会費	60,000	57,051
特別委員会費	30,000	0
予算	50,000	0
(2) 活 動 費	[3,210,000]	[2,281,860]
総会開催費	600,000	441,657
研修会開催費	300,000	281,738
ティータイム開催費	130,000	116,897
会報開催費	750,000	680,538
ジョイントコンサート	320,000	255,571
リサイタル後援費	110,000	19,734
支部開催費	600,000	460,620
慶弔開催費	200,000	25,105
予備	200,000	0
(3) 贈 会 費	[670,000]	[670,000]
全同窓会費	70,000	70,000
130周年募金	600,000	600,000
(4) 稽 立 金	[800,000]	[800,000]
名簿積立金	100,000	100,000
積立金	700,000	700,000
(5) 予 備 費	[706,464]	[0]
支出合計	6,526,464	4,609,541
剩 余 金		2,071,730
支出の部 合計		6,681,271

「音楽学部推薦入試へ向けて」

フェリス音楽教室（山手）

受験科体験教室 生徒募集

日時：2004年9月4日（土）

山手校舎5号館

高3以上 15:40～18:40

高1・高2 16:50～18:30

お問い合わせ

熊取谷（くまとりや）（16回）

9月4日以降のお問合せ（土曜日のみ）

045-641-8396

フェリス音楽教室

九州支部

九州支部長

牛島 悅子（19回）

館）海出智和子（33回）

▼スマイルコンサート（04.7.16）

タル

熱田文化小劇場北川暁子（講師）

山辺町中央公民

● 事務局だより ●

- 住所・電話・姓の変更是旧姓・整理番号(宛名ラベル右上にある「000M000」)と一緒にお知らせ下さい。
- 大学6号館632教室を練習・同窓会などにご利用いただけます。(無料、ピアノ有、50名収容、土曜・祝日可)ご予定のある方はご連絡下さい。
- 宛名ラベルの印刷を1シート(24名分)80円で承っています。同窓会のお知らせなどにご利用下さい。
- 優弾連絡のお願い 同窓生、先生の慶弔をご一報下さい。

<Fグループ事務局>木曜日 10:00～17:00

T/F (045)681-6740

E-mail f-group@ferris.ac.jp

りてらの皆様へ



会長 田辺真弓

大学同窓会会報 第二号をお届けいたします。同窓生の皆様には、ご活躍のこととお慶び申しあげます。大学におかれましては、常にご指導ご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

おかげましては、常にご活躍の皆様には、Fグループアーベルにて二三同窓会会員の皆様に感謝申しあげます。大学においては、ご承知のとおり、同窓会は会員の皆様からいただいたおります大切な会費により運営されております。最近のご時世による会費収入の減少は、現実の問題となつてきております。同窓会を維持していくために、たくさんの会員の皆様のご意見とご希望を伺い、共に話し合う必要があります。今後とも大学のさらなるご発展を望むと共に、会員の皆様の一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。十一月のフェリス祭を、同窓会やホームカミングデーとしてどうぞご利用ください。皆様とお目にかかることができるように、楽しみにさせていただきます。

微力ではございますが、どうぞよろしくお願い申しあげます。

一三〇周年記念事業募金は本年二月末に終了し、新しく立派な図書館は、熱心な学生達で常にいっぱいです。多様なジャンルにわたる書物が同窓生の皆様を待っています。

聖句エッセイ

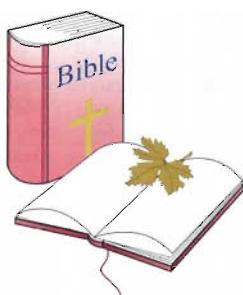
フェリス女学院大学
文学部長 宮坂 覚

日本の文化が取り沙汰されるとき、しばしば浮上してくる聖句である。遠藤周作の「黄色い人」のエピグラフにも使われている。私の信仰生活の中でも拘らされてきた聖句のひとつである。

数ヶ月前日にした一枚の写真は、人間（私もその一人であるが）の罪深さ、それに対するやりきれなさ、切なさを齎した。それは、今も褪めてはいない。その写真とは、戦場での捕虜虐待の写真である。雇託のない若い兵士の表情に、私はわれわれの中に潜む闇の深さを見せつけられた。写真の背後には、神を信じる伝統や文化がある国があった。戦場という空間が感性を狂わせる

たくもなく、なまぬるので、わたしはあなたを『から叶』出そうとしている」とある。日常生活において、曖昧で他人任せで微温的なほうが、対立もなく平和に過ごせそうである。が、時として人間の暗部に潜む憎しみや妬みや奢りに取り込まれる容易さがそこにはある。「冷たいか熱いか」は、他者との対立を勧めているわけではない。対決しなければいけないのは、自らの罪なのであろう。そこに聖書が教える愛、他者との共生への始発点があるのではないかだろうか。こんな素朴なことをもう一度教えてくれた一枚の写真であつた。

（表紙の聖句を受けて）



先の聖句に続いて、「熱くもなく冷

卒業生紹介

夢北見芽里奈(99S)



夢北見芽里奈(99S)

捉えた。その瞬間私は渡仏を決め横山安

認させてくれたのもフランスである

由美先生のご指導と両親の良き理解のもと1・2ヶ月の夏季留学に参加した。卒業後も語学と絵を学ぶため渡仏。まるでフランスに手招きされるようになつた。大学まで親元でぬくぬくと育った私たちは、やがてスチーブンから切迫する一八事に

その中でますます膨らんでいった私の夢はフランスで実現された。日仏交流の更なる深まりを願いつつ日本語とフランス語を併記した絵本「おつきさまのなみだ」が誕生した。

◆ 文学部にコミュニケーション学科ができました

がたかなーーーんてへやねんでのーーー暮れてのーーーを慣れない国で経験する中、勉強生活の面で何度も障害に直面したが私をいつも支えてくれる家族や友人、夢、そしてフランスがあつた。

また日常に埋没され忘れかけていた日本の良さや大切なものを思い出させ再確認する。

The image shows the front cover of a book titled "Story of the Water Cycle" by Motilal Kedia. The cover features a large blue teardrop shape in the center. In the top left corner, there is a circular logo containing a stylized orange and yellow sun-like symbol with the text "Story of the Water Cycle" around it. The author's name, "Motilal KEDIA", is printed at the bottom right of the cover.

北見さんの絵本は2004年
5月、仏プランタングループ最大手書店フナックにて、日本では丸善にて販売されています。

三人の子どもを育てて
（4）

永田 喜子(64)

東京でオリンピックが開催された昭和二十九年、私は郷里・千葉県山武郡の中学校で英語の教師に就任しました。三年目に見合い結婚をした夫は高校野球の監督としてチームを県下有数の強豪に育てていました。私は初めて受け持った教え子たちを卒業させようと思ふ意気込んでいましたので辛さは覚悟して其働きを始めました。昭和四十三年三月、私は長男の出産予定が五月に迫ったお腹を羽織と袴で被り、初の卒業生を送り出しました。昭和四十六年長女誕生、夫は千葉県体準備のため県教委へ異動し多忙は続きました。昭和四十八年私の異動を機に同居していた実家から独立、秋に千葉県体、二男誕生がありました。二ヶ月後職場復帰した私はよく熱を出す長男と一人の幼児をかかえて、退職を考えましたが母の忠言もあり、「頑張つてよかつたと思うが必ず来る」と信じて踏みとどまりました。

連れ出し自転車の乗り方や泳ぎを教え遊んでくれました。長男の裕志には家事の手伝いや妹貴子や弟克彦の世話を頼みました。五、六歳の子に疎かだと思うこともありました。が、結果的には思いやりと任感が育つてくれました。

学校の勉強は「授業をしつかり聞き、疑問点は先生に尋ねる」とい



「で解決する」を信条に、子どもたちに忘れ物をしない心がけをさせました。学習塾へは通わせませんでしたが放課後の部活動や、ボーリスカウトの活動等、課外活動は積極的に参加させました。努力や忍耐力の大切さ、友情や連帯感、目標を達成する喜び等多くの素晴らしい体験をさせることができました。小学校に入る子どもたちに運動靴や上履きの洗い方を教えました。洗濯機の使い方も教え、自分たちで洗濯し干してからしまうまでできるようになりました。

成になつて います。
四年後には 同窓会りて らに コミュニ
ケーション 学科を 了えた 仲間を お迎え
する ことが できます。
楽しみですね!!

ドコンペティション、ネイルアート部門で優勝し金メダルを獲得しました。現在、裕志は新日本プロレスのエースとして、貴子はネイルアーティストとして活躍しています。克彦は二度目のオリンピック出場となるアテネ大会に向け最後の調整を行っており、裕志は支援コーチとして現地で応援することになっています。

私はこの四月、四十年間の教職生活を悔いなく全うすることができました。今は、アテネでレスリンググレコーマン74kg級に出場する克彦を夫や貴子と一緒に応援する日を楽しみに、日々穏やかに過ごしております。

決算報告

りてら 2003年度決算報告

収入

項目	決算
終預金簿	15,360,000
身会簿	14,966
利代	12,000
雜収	134,423
小計	15,521,389
前年総額	21,055,166
合計	36,576,555

支出

項目	決算
事務用品	159,483
印刷	1,832,138
通給	2,879,983
雜手	1,981,001
数	55,134
パソコン	4,566
会議	175,287
卒業	301,754
交際	795,000
交際品	212,900
備品	592,405
リ	76,047
ス	0
寄名簿	1,034,000
関連	14,660
エリス	2,999
カフェテラス	500,000
預金、その他	10,001,000
小計	20,618,357
来年度総額	15,958,198
合計	36,576,555

2003年度りてらショップ決算報告

(2003年4月1日～2004年3月31日)

収入	支出
ジェイビーマート	1,968,227
フェリシティ(緑園)	529,274
フェリシティ(仙台)	196,413
横浜香水研究所	672,000
山手ショップ用仕入れ品	4,652
振込料	5,460
送料	3,380
小計	4,208,048
総額在庫	1,333,102
前年度総額	4,217,389
合計	9,758,539
費	1,832
戻し金(りてらへ)	4,000
小計	3,385,238
来年度総額	6,373,301
合計	9,758,539

カフェテラス りてら決算報告 (2003年2月～2004年3月)

(単位 円)

収入	12,383,764
支出	11,108,921
次期総額	1,274,843

これら3件の決算報告はりてら同窓会員から承認されております。

クリスマスリース 講習会のお誘い

りてら役員が変わりました

十二月十一日(土)、フェリスホールでのクリスマス礼拝のあと、クリスマスリースの講習会に参加なさいませんか。

皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。
同窓会りてらの役員が二〇〇四年度から三年の任期で着任しました。
非力ですが一生懸命励んでまいります。

・講師 潤野智恵先生

先生はFグループ同窓生で各種講座、雑誌、テレビ(TV K・ハマ天国)舞台装飾など巾広い分野でご活躍です。

・材料費 四千円

・日時 十二月十一日(土)
午後一時から二時半

会計	書記	副会長	会長
加藤	松本	坂井	田辺
倉田	野瀬	久子	真弓
優子	慶子	(72E)	(72E)
(95J)	(78E)	(62E)	(62E)
まゆみ	文子	(71J)	(71J)
(95J)	(63E)		
世以子			
(71J)			
まゆみ			
(95J)			

・場所 山手6号館1階ピロティ

お申し込みはりてら同窓会室へ
電話・FAX 045-812-8692
メールアドレス litela@uranus.dti.ne.jp
〆切は十一月末日です。

Fグループ・りてらの皆様の
べるてもお待ちし
ています。



りべるて

Vol. 16

五十川周作先生を悼む



大学事務部長 千葉 秀悦

五十川先生がこの1月27日に召されました。病気と戦い、今日の医療体制との戦いの末の先生らしい最期でした。

理不尽だと思うことは力の限り戦う、そして弱い者に対しても親鳥が翼のうちに雛をかばうように優しかった。厳しい状況・環境にいる隣人への共感の姿勢は先生の生き方でした。

昨年の10月の初旬に五十川先生から電話があり、「蔵書を大学の図書館に寄贈したいのですが」という相談を受けてお宅に伺いました。蔵書のうちから貴重な本だけが選ばれ、ダンボール箱にきちんと詰められていました。歩くことができたのはこの日まででした。その後、図書館から寄贈の礼状が病床の先生に届けられ、先生は喜んでおられました。

当日は喫茶も開いておりまので、山手散策のあと、お茶を飲みながらゆっくり語らつては如何でしょうか。是非お出掛けください。ここで、毎年のお願いですが、ご家庭に眠っている日用品がございましたらご寄贈をお願いいたします。家政科記念館宛にお送りいただければ幸いに存じます。バザーの収益金は、学院およびユニセフなどに寄付いたします。皆様のご協力をよろしくお願いします。

1969年から1988年まで短期大学家政科の教員として学生部長、学科主任を勤められました。この間の卒業生はおおよそ4500人で、随分多くの卒業生が何らかのかたちで先生の

指導を受けたことになります。学生相談の時間はいつも学生の都合が優先で、先生は昼食をとれないことがしばしばでした。「学生のため」がすべてに優先していました。ある年、卒業できるかできないか微妙な学生の擁護に、教授会で孤軍奮闘されていたことを思い出します。厳しい状況の学生のために規則の適用は柔軟でした。1988年度の家政科最後の卒業生とともに、りべるての家政科記念館運営基金を残し、フェリスをお辞めになりました。

1964年から1969年までの短期間に、事務局長として、山永学院長、郷司理事長のもと1965年の大学設立、就業規則をはじめとする諸規定の制定、当時としては画期的な会計制度の導入により日次決算を実現、今日的労使関係の構築そして職員の公募など

学院経営の近代化に大きな功績を残されました。先生の24年のフェリスでの歩みを顧みて、その足跡を十分に語り尽くせませんが、多くの感謝とともに先生にお別れを申し上げます。

五十川先生の追悼会

二〇〇四年十月二日（土）

十四時～十六時

於 家政科記念館

お申し込みは家政科記念館まで

電話〇四五（六六二）〇七五〇

家政科同窓生有志

「同窓生は一つの心で」

会長 皆澤 靖代



一年の経つのは早いもので、年一回の会報を発行する時期を迎えました。

昨年より大学三同窓会と協力しながら会報を発行し、皆様よりご好評をいただきました。それぞれの同窓会の活動を知ることでき、フェリス同窓生としての一体感が強まり、良かったと思います。また、合同で総会も開催いたしました。今年は五月の連休の初日にもかかわらず、学院関係の諸先生方並びに同窓生の皆様がお集まり下さいましたことに感謝いたします。

それぞれの同窓会の特徴を發揮し、一つになつて目的に向い、成し遂げることの素晴らしい実感を持ちました。

次に、「りべるて」の活動をご報告いたします。懸案でありました運営資金につきましては、一昨年に解決し、年間を通して順調に進めることができました。役員もそれぞれの持ち味を活かし、少しでも会員の皆



活躍する
同窓生



ビーズに魅せられて

D 43

小倉 志保子



美しいアクセサリーが好きだった私は、最初、コスチュームジュエリーの販売を手がけていました。

ビーズのブーム

私がおこりはじめた頃、ビーズアクセサリーの専門会社が教室をはじめ、「六ヶ月プロ育成コース」を受講しました。その間、パリのブレタボルテに参加する機会を得ました。東洋的な作品に興味を持つバイヤーが多く、楽しくもありましたが、現実の仕事の厳しさを痛いほど知らされました。卒業後、自宅のマンションでの制作ホームページも開設し、教室と作品の販売をしています。教室は、自宅サロンでのメリットを生かして、少人数とし、生徒さんは納得がいくまでレッスンをして



美しいアクリルメタル、エリーナの販売を手がけていました。

ビーズのブームがおこりはじめた頃、ビーズアクセサリーの専門会社が教室をはじめ、「六ヶ月プロ育成コース」を受講しました。その間、パリのブレタボルテに参加する機会を得ました。東洋的な作品に興味を持つバイヤーが多く、楽しくもありましたが、現実の仕事の厳しさを痛いほど知られました。卒業後、自宅のマンションでの制作ホームペジも開設し、教室と作品の販売をしています。教室は、自宅サロンでのメリ

www.shihoko.ne.jp
webmaster@shihoko.ne.jp

友井先生お料理教室

今年もまた、お元気にお過ごしの友井先生に、お料理を教えていただきました。

メニューや、あさりのオードブル・

手軽な野菜スープ・ポーチソテー・野菜ソース・デザートのマドリード風カスタードプリンです。はじめに、友井先生に作り方をお教えていただきました。

ただき仕事の幅も広がりました。

綺麗な物を沢山観ることによって、感覚的なことが磨けること日々思つておられます。私は、幸福なことにそのことに恵まれたと思います。フレーズでの二年間もそうでした。

お食事には、岡野学院長もご出席ください。皆様と一緒にいただきました。

「りべるて」の同窓生という親しさから、楽しい時を過ごしました。使い易い様に良く準備された材料に、ゆき届いた心配りを感じさせ、お忙しかった事でしょう。遠くから来て下さり、ありがとうございました。珍しい体験をさせて頂く事が出来ました。

二〇〇四・六・二十四

同窓会名簿発行のお知らせ

二〇〇四年度同窓会名簿を発行いたします。

一部二〇〇〇円（送料込み）です。
ご希望の方は、必要事項記入の上、
郵便局よりお振り込み下さい。



T.M

プリザーブドフラワー講習会

田島あけみ先生 二月十二日

最近、私達の目にも度々触れる様に成つて来たプリザーブドフラワー、興味をもつて参加させて頂きました。生の花の

様な美しさを、数年保つ魅力。

始めて脱色した花を液に漬け、それぞれの色に仕上げる。その花自身が、自然

界では咲かせない様な色でも造り出しました。

たフランス生まれの花。ドライフラワーとは違つて、カサカサ感は無く高価な物です。これを使って、アレンジを教えて頂きました。

「りべるて」の同窓生という親しさから、楽しい時を過ごしました。使い易い様に良く準備された材料に、ゆき届いた心配りを感じさせ、お忙しかった事でしょう。

遠くから来て下さり、ありがとうございました。珍しい体験をさせて頂く事が出来ました。

みなとみらい線で山手へ

二月一日、横浜高速鉄道・みなとみらい線が開業しました。

東急東横線と相互直通運転となり、渋谷→終点元町・中華街駅まで、特急利用で三十五分となります。

そこで今回は、各駅を紹介しながら山手家政科記念館までご案内します。

新しい車両は、みなとヨコハマの海をイメージしたブルーと、伸びゆく都市をイメージした、イエローのグラデーションで彩られています。新しい五つの駅はそれぞれの設計士（設計会社）が設計を担当しました。

横浜の次、新高島駅。この駅名は幕末、明治に横浜のまちづくりに貢献した高島嘉衛門にちなんでいます。ホームは地下五階、一番地下深くにあります。アートフレームが目印のエスカレーターで地下二階のコンコースへ、そこはステンドグラスのウォールアートが深海の様子を現しています。エントランスは地下まで光が届くよう格子にガラスのはめ込みとなっています。夜は発光ダイオードにより光のオブジェのようです。

続いて、みなとみらい駅。ホームは地下た百九十四点の岡版が、真白な大型陶板

四階、電車を降りると、地下二十メートルのホームからクイーンズスクエア、さらには上空まで望むことができます。赤や緑、黄、オレンジなどの大きな空調配管が機能とデザインをみごとに調和させています。横浜美術館、パシフィコ横浜、クイーンズスクエア、ランドマークタワーの中心にあります。

次は、馬車道駅。本物の赤レンガを手作業で積み上げた古びた壁面が四方を開み、そこに埋め込まれた横浜銀行旧本店のレリーフや金庫など、歴史の重みを感じます。赤レンガ倉庫や横浜ワールドポーターズ、県立歴史博物館などが近くにあります。

そして、日本大通り駅。横浜市開港記念会館、神奈川県庁、横浜税関など周辺の歴史的建物の街並みをデザインテーマに、基本フォルムにアーチ、基本素材に石とレンガを用いて歴史的建物の内部空間を表現しています。大人橋も近く、船を見に行くのもいいです。

終点の元町・中華街駅。ホームやコンコースには、横浜開港資料館から提供され

に写真製版によって拡大し、焼きつけて

あり駅全体がまるで資料館のようです。

元町方面は五番出口へ。駅を出ると目の前は、谷戸橋。元町プラザを買つか。ウチキパンでお弁当にパンを買つたことも懐しい思い出です。そのまま元町公園を通って山手の通りに出ます。また、元町の通りをそのまま進み、キタムラ K2 元町本店横を入り、アントギャラリーを右手に代官坂を上がり、六号館手前平屋の建物が家政科記念館です。

十一月二日（祝・水）は毎年恒例のバザーをいたします。献品は当日まで受付ますので、山手散策を兼ね、みなとみらい線でどうぞ。便利な一日乗車券もあります。

献品のお願い

フェリス祭バザー当日に販売する日用雑貨品や贈答品等がございましたら、ご

寄付くださるようお願い申し上げます。尚、未使用の品で食料品・衣類は除外させていただきます。

・受付期間
十一月二日まで

・毎週木曜日 午前十一時～午後三時

・受付場所 家政科記念館
郵送・宅配便でお送りいただいても結構です。



■ 2003年度決算報告書

2003年4月1日~2004年3月31日

科 目	金 額	備 考
前年度からの繰越金	13,407,531	
今 年 度 の 収 入	利息収入	6,476
	事業収益	649,995
	基金運営費	2,494,331
	年会費	9,000
	寄付金	0
	小計	3,159,802
合 計		16,567,333
今 年 度 の 支 出	消耗品費	5,153
	旅費・交通費	324,640
	通信・運搬費	946,483
	印刷・製本費	947,131
	報酬・手数料	50,525
	会議・会合費	86,027
	諸会費	70,000
	涉外費	33,807
	雑費	49,565
	事業費	299,565
	寄付金	160,272
	小計	2,973,168
翌年度への繰越金		13,594,165
合 計		16,569,333

繰 越 金 明 細	定期預金(浜銀)	6,280,649	
	定期預金(郵貯)	2,627,481	
	定額預金(郵貯)	3,010,420	
	普通預金(ばるる)	1,675,612	
	振替金(浜銀)	3	
	合計	13,594,165	

*監査の結果、正確であったことを確認致しました。 2004年3月31日

■ 2004年度予算

2004年4月29日

科 目	金 額
消耗品費	事務用 10,000
	その他 10,000
旅費・交通費	350,000
通信・運搬費	郵便料金 1,000,000
	宅急便 5,000
印刷・製本費	1,000,000
報酬・手数料	55,000
会議・会合費	80,000
諸会費	70,000
涉外費	50,000
雜費	10,000
修繕費	10,000
事業費	400,000
合計	3,050,000

會計

元和嘉子
河合惠子

會計監查

石井克子
金田清枝子



フェリスグッズ

●エプロン(黒・赤・茶・紺・ピンク)
各¥2,000円

●ハンドタオル

(ピンク・クリーム・水色・黄緑)

各￥450円

●スプーン フォークセット

各￥500円

● 申し込み先

家政科同窓会りべるて

Tel · Fax 045-662-0750

十一月一日(火)	十一月二日(水)
フェリス祭参加バザー	午前十一時
午前十一時	十一月十日(水)
午前十時半	ステンドグラス講習会
秋予定	北欧絵織物教室
午前十時半	十二月十一日(土)
クリスマス礼拝	フェリス女学院全同窓会
午前十一時 フェリスホ	二〇〇五年
大森先生お葉	一月未定
ブリザーブドアレンジメント	る

会長 副会長 皆澤 靖代
書記 会計 沢村 由紀子
小倉 金子 和恵
北村 遠藤 木美子
周子 志村 嘉子
河合 村本 昌子
遠藤 渡辺 とよ子
北島 佐藤 見子
志村 岩江 初枝
河合 鈴木 誠子
北島 佐藤 昌子
渡辺 あみ
志村 真理子
河合 克子

D D D D D D D D D D D D D D D D D D
43 37 57 55 51 44 44 40 35 35 47 47 45 43 51 43 41

追悼 小黒聰先生



大学教授 鈴木美南子

手元に昨年十二月にいただいた先生からの葉書がある。「私は九月のドックで異型影で、あれやこれや検査がありて、結局左肺のガンとわかりました。手術がダメなので抗ガン剤の点滴を一回受け、二回目が多分十五日からになります。副作用が出るので一寸たいへんです。」私の方でも夫が十月に癌の手術を受け、やつと十二月に退院した時で、そのご報告に対して下さった手紙である。いずれお見舞いにと思っていました。思えば先生はペニースモーカー。七八歳を目前にしての逝去であった。

先生は、九州大学、平塚益徳教授のもとで教育学を専攻、一九五四年フエリス女学院短期大学教職課程のために着任された。担当科目は、ずっと教育原



理・教育実習、一般教育の教育学などで、教員免状を取得された卒業生の方々は、特にお世話をなったことと思う。非常な読書家であると同時に、本以外からの知識も豊富で、それが全部頭に入っているので、とにかく博覧強記の先生の議論についていくのは大変だった。戦後の男女平等理念を真っ当に追求されたフェミニストで、研究者・大学教員である夫人を愛され、学生への指導も賢い女性としての自立を促すものであつたと思う。数々の役職も担つてこられたが、特に八五〇八年大学長として、短期大学の大学への再編という大きな転換期を乗り切られた。その結果、キャンパスが開設され、翌年の音楽学部設置となつたのである。また五八〇七五年、横浜市政審議会の理事をされるなど、市政にも通じておられ、九一年大学退職後も、同市政調査会(六四年改組)理事長として地域行政に関わっておられた。

フェリス同窓会東京支部は登録会員約850名でございますが、実際に活動にご参加頂いている人数は、200名くらいでしょうか。この会は総会をはじめ、観劇会・歌舞伎・研修会・ビデオによるオペラ・気仙再生のお話「日本の心」、親睦会(今年は奥多摩バス旅行)等、年間7~8回の活動を行つており、皆様が行事に参加してくださる事で会の運営が成り立っていく、という事になつております。そこでもう少し実働会員を増やしたいとの願いを持ちまして、今年は現在の会員より少しお若い層の方々に、入会・案内のお手紙を差し上げる事になりました。白菊会、りてら、りべる、Fグループの会員で、まずは東京在住の方々をお誘いし、その方々のお友達で横浜やその他、近県にお住まいの方も入会・希望なら、よろこんでお迎えいたします。行事は今までのところ、すべてウイークデイになっておりますが、10月7日(木)の今年の総会には講師としてジャーナリスト鳴(しま)信彦氏をお願い致しました。会員以外の方の参加もご自由でございます。

金フェリス同窓会としての親睦を深めになる働きをしたいものと願っております。お問い合わせは左記に。

高間 瑞子

同窓会支部だより

東京支部



関西支部

格別な暑さの続く関西の夏が過ぎ、山々の木々が美しく彩る頃フェリス女学院

同窓会関西支部の総会が毎年十一月第二水曜日に開催されて居ります。年ごとに神戸・京都・大阪・奈良と開催場所が順次変わり開かれています。その中で幹事の方々は場所探しに苦労しながら事前に当

日のお料理の試食までされ決定する程の念の人れ様な会場で開かれ、年に一度関西で活躍の同窓生の演奏を聞く機会がありまして、昨年度は大阪で開催されました。出席者約40名の総会ではチエンバロ奏者の山名朋子さんが演奏され総会会場はコンサートホールに変わったかの様に優雅な時間が流れ素晴らしい演奏に出席者一同感動させられました。出席者の中には三〇年振り寮で一緒だった方との偶然にも再会をされたり、先輩、後輩学部の壁を越え交流の輪が出来て、生活情報から美味しいお店搜しなど話は止まることはありません。では又来年と。

今年は神戸で総会を予定して居ります。関西在住以外の方で出席されたい方も歓迎です。旅の途中에서도お立寄り下さい、お待ちして居ります。D43 小倉悦子

連絡先
阪本清美(71E)
場所 神戸にて
中谷直子(71E)

カイパー サタデー コンサート IV

2004年9月25日(土) 会場12:30 開演1:00

フェリス女学院カイパー記念講堂

JR石川町南口 MM線 元町中華街下車

全席自由 3,000円(学生券 1,000円)

ソプラノ独唱 高橋 和美(ソプラノ)・林 めぐみ(チェンバロ)
ピアノ独奏 神西 敦子(ピアノ)
ピアノトリオ 水野 佐知子(ヴァイオリン)・井上 雅代(チェロ)・
辛島 仔緒子(ピアノ)

同時開催 絵画展 島 栄里子

主催 フェリス白菊会 後援 フェリス女学院中学校高等学校
問合せ 同窓会室(火・木 在室) TEL 046-641-5200
収益はフェリス女学院中学校高等学校に寄付いたします

2003年度 フェリス女学院全同窓会連絡会 会計報告 (2003年6月1日~2004年3月31日)

前年度繰越金		602,593
収入	全同窓会会費	280,000
利息		3
小計		280,003
合計		882,596
支出	各支部へ祝儀(東京・西南・関西)	61,269
	クリスマス礼拝関連費	79,815
	慶弔費(小塙先生、お花代)	2,152
	備品購入(スクラップブック)	378
	会議費	5,000
	合計	1,48,614
	翌年度繰越金	733,982

ます。
西南支部長 木村朱美
学生さんから年配の方々まで幅広い参加
があり、熱心にメモを取る方も多く、又
何度も笑いが起つたりであつという間に
時間が経つてしましました。午後は会場
を移し岡野新学院長、黒沢事務局長をお
迎えし総会を開きました。黒沢先生が礼
拝を守つて下さり、岡野先生は就任のいき
さつや懐かしい山手や緑園の近況などお
話してくださいました。お一人とも気さ
くなお人柄でいつも増して和やかな雰
囲気となりました。生涯学習課の方々そ
してお当番の家政科の方々御苦労様でし
た。この初の試みがどうであったのか反省
点もいくつかあるかと思います。会員の
皆様の率直なご意見をお待ち致しております。

フェリス女学院全同窓会主催

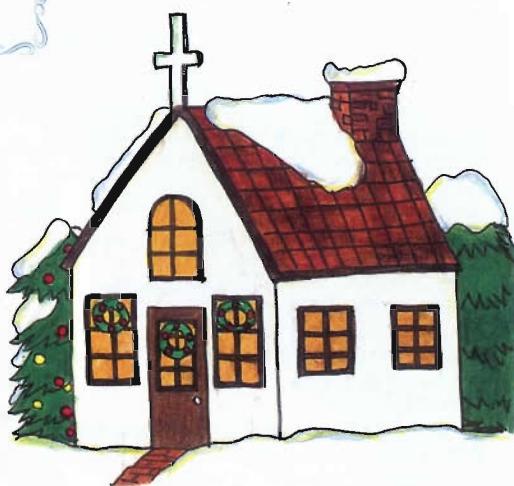
クリスマス礼拝のご案内

日時 2004年12月11日(土)

午前10:30~11:30

場所 フェリスホール

説教者 キスト・岡崎さゆ里牧師



西南支部

西南支部はここ数年生涯学習課主催の講演会又は演奏会のお手伝いを六月に、秋に同窓会総会を行つて参りましたが、昨年は初の試みとして土曜日の午前に講演会、その後場所を移動して総会を行いました。ウイークデイは仕事の為出席できぬというご意見も以前からありましたし、生涯学習課の方の協力も得られることになり充実した「フェリスの一日」になりました。期待いたしました。

藤本先生による児童文学についてのお話は幼い時の読み聞かせが大切であること、本当の「白雪姫」等たいへん興味深いものでして、幼稚園の先生、児童教育専攻の学生さんから年配の方々まで幅広い参加があり、熱心にメモを取る方も多く、又何度も笑いが起つたりであつという間に時間が経つてしましました。午後は会場を移し岡野新学院長、黒沢事務局長をお迎えし総会を開きました。黒沢先生が礼拝を守つて下さり、岡野先生は就任のいきさつや懐かしい山手や緑園の近況などお話ししてくださいました。お一人とも気さくなお人柄でいつも増して和やかな雰囲気となりました。生涯学習課の方々そしてお当番の家政科の方々御苦労様でした。この初の試みがどうであったのか反省点もいくつかあるかと思います。会員の皆様の率直なご意見をお待ち致しております。

今年もまた、りてら、りべるて、Fグループの皆さまが手をつなぎ合ったこの会報に、白菊会からのお知らせも載せていただいて、とても嬉しく思つております。

す。

学院の同窓会が全ての心を一つにして支えてきた記念事業への募金活動が今春終了して、緑園には立派な校舎、設備が次々と整えられました。それにつれて、山手の丘では、皆さまや学生達にもお目に掛かることが少なくなつたようで、ちよつびり淋しくなりました。でも、中高の生徒たちは、毎朝カイパー講堂で全校生が集まつての礼拝に始まる新校舎での生活を伸びのびと楽しんでいる様子です。広いラウンジや明るい教室から溢れ出て来るはじけるような笑顔や歌声に、私ども同窓生も元気をいっぱい貰いながら、感謝の心で日々活動に励んでおりまます。とは言え、中高にはまだ、2号館、体育館の改築という重い課題が残されてます。白菊会ではこれからも、色々なプログラムを組んで“White Daisy Fair”を開きながら支援を続けてまいります。みなさまにも、チラシなどでご案内いたしますので、どうぞ山手の校舎へもお出かけ下さいますように。カイパー講堂でお会いできるのをたのしにしておりまます。

白菊会からのおさそい

